

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 422 号	氏 名	櫻井 祥之
審査委員	主査 奥嶋 政嗣 副査 山中 英生 副査 小川 宏樹		
学位論文題目 災害リスクと住宅市街地基盤の活用を考慮した居住誘導区域の指定に関する研究			
<p>審査結果の要旨</p> <p>わが国は人口減少時代に突入し、社会生活に不可欠なインフラの効率性低下による維持管理の困難等の問題が生じ始めている。また、近年の豪雨災害等では市街地に甚大な被害をもたらす事例が多数発生し、都市機能や居住の立地適正化と防災施策の連携の必要性が唱えられている。本研究は人口減少下において安全かつ持続可能なコンパクトシティを形成するための知見を得ることを目的としている。</p> <p>本論では、まず全国の自治体における居住誘導区域指定時の浸水想定区域の取り扱いについて整理し、それらを除外して居住誘導区域を指定することの可否について検証している。ハザード状況の異なる複数の都市でケーススタディを実施し、計画的に浸水想定区域の全域や一部を除外した居住誘導区域が指定可能であることを確認し、人口密度の維持とリスク低減を実現する居住誘導区域の範囲を明らかにしている。その結果を元に、自治体は居住誘導区域指定時に、将来人口動態を踏まえたリスクの検証・評価を実施し危険性の高いエリアの除外を指針として示すべきである旨を提言した。</p> <p>また立地適正化計画における住宅団地の計画的管理を行う方策について、市街化区域内の住宅団地をリスク回避のための移転先とする場合、当該住宅団地は居住誘導区域に指定し、移転した住民の生活利便性と住宅団地の将来的な維持を担保することを明確に示す必要性を明らかにしている。さらに市街化調整区域の住宅団地を移転先とする場合においても、その維持を目指す区域として、独自区域を指定する手法について提言している。</p> <p>以上より本研究は、安全かつ持続可能なコンパクトシティを形成するための知見として、居住を誘導すべき区域より災害ハザードエリアを除外するための方策や、既存都市基盤の活用方策を提示するなど、計画行政分野において価値の高い研究成果をあげている。よって、本論文は博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。</p>			